

人が亡くなると残された者たちによって<sup>しよなの か</sup>初七日、四十九日、百か日、一周忌、三周忌等の法要が行われます。死後の<sup>めいかい</sup>冥界を10人の王が支配していて、死者は忌日ごとにそれぞれの王の前で生前の行いを裁断されるといいます。生きている者たちは法事をおこなって死者の成仏を側面から支援します。この冥界を支配する10人の王をまつた堂が<sup>じゅうおうどう</sup>十王堂です。十王堂は各地に建てられましたが、松本の城下では、東西名南北のそれぞれの入り口にたてられていたものがありました。

## ○ 安原町の十王堂（北）



安原町の十王堂があった場所

所 浄土宗寺院開山記（河辺文書）によれば、上横田町の<sup>りんしょう</sup>林昌寺の末寺で、そこに3間四方の十王堂と2間4間の庫裏の建物がありました。

現在は、平成2年に立てられた標柱が建っているだけです。

<sup>やすはらまち はぎまち</sup>安原町と萩町の境にありました。現在の地名では北深志2丁目4番の北部です。萩町が設けられたのは、水野氏の時代といえますから、それ以前は安原町が城下の北端でした。そこでここに十王堂がおかれ、萩町ができて街並が北に広がっても位置は移動しませんでした。

「享保十三年秋改松本城下絵図」では間口（南北）11間奥行（東西）21間の広さがあります。南に連なる町屋の間口が約3間であったのに比べると広い間口でした。また、十王堂の前の道には十王堂を境にして木戸が設けられていました。

「元禄九丙子年十一月御改 信州松本領並御領

## ○ 餌差町の十王堂（東）



餌差町の放光庵 左に地藏菩薩 右に十王



閻魔大王像と十王像

東の出入り口に<sup>やまべこうじ</sup>あたる山家小路にありました。現在の地名では大手5丁目5番の南部で、<sup>ほうこうあん</sup>放光庵があります。放光庵の場所には建物が2つあり、正面は「放光庵」の額を掲げ<sup>じぞうぼさつ</sup>地藏菩薩をまつています。その右側は「<sup>えんまどう</sup>閻魔堂」で十王をまつています。

城下の入り口を固める4つの十王堂のなかで、十王の像が残っているのはここだけです。なかでも閻魔大王の像は大きな像で優品です。

この十王堂の由来を紐解くと、もともと十王堂は現在の位置より西にあり、年代は定かではありませんが、あとで現在地に移ってきたといえます（現地の案内板によれば昭和11年という）。放光庵の

ある場所には、石塔がいくつかたっていますが、そのなかには延宝8(1680)年の銘をもつ古い庚申供養塔もあります。庶民が古くから信仰の場としていたことがわかります。また弘化2(1845)年の「供養灰塚」という碑もたち、かつて火葬場として用いられていたこともあったようです。

放光庵にまつられている地蔵菩薩は石造で110cmの大きさがあります。右手に錫杖、左手に宝珠をもつ延命地蔵の形をとっています。寛文9(1669)年の年号と山口喜兵衛の作銘ほか多くの人名が刻まれています。台座には方形の3段の台石があり、その上に蓮台座がおかれています。全体に大きな石造物ですから、この像をすえた後に堂の建物や厨子を造ったものかと想像されます(胡桃沢友男「放光庵の地蔵と閻魔」『信濃』44-9)。

地蔵菩薩は、閻魔大王の本地仏といわれていて、十王とは関係が深い仏です。現在地の西にあった十王堂が、地蔵菩薩がまつられていた放光庵のある地に移転再建して、現在一緒にまつられているのもいわれなきことではないように思われます。

## ○ 博労町の十王堂(南)



博労町の十王堂があった場所



寛永20年の六地藏石幢

南の出入り口にあたる博労(馬喰)町にありました。現在の地名では本庄1丁目12番付近で、建物はありますが、石造物が残されています。

「元禄九丙子年十一月御改 信州松本領並御領所 浄土宗寺院開山記」には生安寺末で「十王堂十輪院」は天正19年に立つと記されています。建物は本堂5間四方、庫裏5間半に2間とありますので、かなり大きな堂があったこととなります。天正19(1591)年は石川数正が松本へ入ってきた翌年にあたります。

堂の建物や十王像はありませんが、現在に残る石造物のなかには、江戸初期の年号を刻む寛永20(1643)年の対になった六地藏石幢を代表に、貞享・元文といった比較的古い制作年代の石造物や聖観音・如意輪観音・地蔵菩薩像などが残り、人々が厚く信仰していたことを伝えています。

## ○ 伊勢町の地蔵堂(西)



伊勢町の地蔵堂

西の出入り口にあたる伊勢町の西端にありました。現在の地名では中央1丁目27番付近で、今は分銅町公民館の脇にまつられています。

「享保13年秋改松本城下絵図」には伊勢町の西端に間口9間奥行12間2尺の広さで「地蔵堂」とあり、十王堂ではありません。享保より以前の「元禄期松本城下絵図」には、同じ場所に地蔵堂の記載はなく「地蔵堂元禄五年申年建之」と書き込みがされています。これによれば、元禄五年に地蔵堂が伊勢町の西端に建てられたこととなります。元禄期以降は地蔵堂になっていますので、城下の西側の十王堂は当初は別の場所に建てられていたか、退転してしまったかしており、元禄期になってここに改めて地蔵堂が建てられた可能性もあります。

現在まつられている石造の地蔵尊には元禄<sup>げんろく</sup>15年の刻銘があります。

閻魔の祭日は正月と盆の16日で、閻魔参りがおこなわれました。現在、十王信仰はあまり広がりをみせていません。「嘘をつくと閻魔様に舌を抜かれる」と昔の人が誠めた言葉の復活を、閻魔様自身が一番強く願っているかもしれません。

○ 十王堂の場所を示す絵図（「享保十三年秋改 松本城下絵図より」）

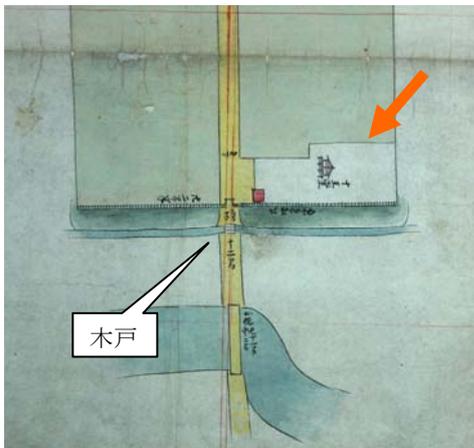
安原口



餌差町



博労町



伊勢町（地蔵堂）

